

アブラハムの召命 [召命 (しょうめい) : 呼び出されること] について

まず、アブラハムの召命についての聖書箇所を見ましょう。

「主はアブラムに言われた。／『あなたは生まれ故郷／父の家を離れて／わたしが示す地に行きなさい。／わたしはあなたを大いなる国民にし／あなたを祝福し、あなたの名を高める／祝福の源 (みなもと) となるように。／あなたを祝福する人をわたしは祝福し／あなたを呪 (のろ) う者をわたしは呪う。／地上の氏族はすべて／あなたによって祝福に入る。』アブラムは、主の言葉に従って旅立った。ロトも共 (とも) に行った。」(創世記 12 章 1 節～4 節)

「信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出ていくように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したのです。」(ヘブライ人への手紙 11 章 8 節)

創世記 12 章では、アブラハムの呼び名は、最初はアブラムとなっています。のちに、神様が契約を結ばれた時、多くの国民の父となるとのことで、神様からアブラハムと呼ばれるようになりました。ここでは、アブラハムに名前を統一します。

アブラハムは、今のイラクにあたる地方に住んでいました。世界史で習うメソポタミア文明が起こった場所でもあります。この場所から約束の地 (今のイスラエル地方) に行くようにとの神様からの御言葉がありました。住み慣れた場所から新たな場所に移動するのは、徒歩と動物しか移動手段がない当時のことを考えれば、困難をきわめたことでしょう。しかし、聖書は淡々と神の言葉に従ったアブラハムの歩みを記しています。

アブラハムは、この時 75 歳でした。何かを始めようというには、年をとりすぎているようにも思います。でも、聖書の語るアブラハムは、年齢を感じさせません。青年、壮年のように躍動さえしています。新しい土地への長距離の移動、新しい土地での先住民との交渉、抗争等。神様が呼び出し、神様に聴き従う時、年齢という壁を打ち破り不可能を可能にされる神様の大いなる力をおぼえさせられます。

アブラハムは、神様から呼び出されました。そして、アブラハムは、神様に聴き従いました。これから、信仰の父と呼ばれたアブラハムは生涯にわたってその歩みを続けていきます。アブラハムの神様への絶対的な信頼、絶対的な服従がその歩みを支えています。そして、それは神様と共に歩む祝福された人生と言えます。わたしたちは、このアブラハムの信仰にならいつつ、自らの行いに頼むことなく、救い主イエス様を信じていきましょう。

(若月 学)